

平成25年度予算見積調書

課室名: 森づくり課
 担当名: 間伐・森林循環担当
 内線: 4321 (単位: 千円)

番号	事業名		会計	款	項	目	説明事業	
B76	革新的低コスト造林事業		一般会計	農林水産業費	林業費	造林対策費	森林整備推進事業費	
事業期間	平成23年度～平成34年度	根拠法令			戦略項目	10 みどりと川の再生		
					分野施策	030202 収益を生み出す林業の振興		
<p>1 事業の概要</p> <p>さし木ポット苗による低コスト造林技術の生産体制を整備することにより「伐って・使って、植えて、育てる」森林循環利用を実現する。</p> <p>1 採穂園等の整備 1,125千円</p>			<p>5 事業説明</p> <p>(1) 事業内容</p> <p>ア 採穂園等の整備 さし木ポット苗生産のための挿穂を生産する拠点として、県施設内に採穂園を整備する。また、成長が早く、花粉が少ない苗木を供給するための採穂園を整備する。 1,125千円</p> <p>(2) 事業計画</p> <p>ア 平成25年度までに低コスト造林実証地の設置を終了する。 イ 平成30年度までに低コスト造林技術（植栽、下刈り）の検証を終了する。 ウ 平成34年度までに低コスト造林に必要な苗木を供給するための採穂園等の造成を終了する。</p> <p>(3) 事業効果</p> <p>ア 低コスト造林技術を確立することにより、森林所有者の林業経営意欲の向上につながる。 イ 低コスト造林技術を確立することにより、森林所有者の伐採意欲が向上し、森林の循環利用が促進される。 ウ 低コスト造林技術を確立することにより、植栽及び保育の造林コストを25%削減する。</p> <p>(4) 県民・民間活力、職員のマンパワーの活用、他団体との連携状況 公益社団法人埼玉県農林公社では、毎年新たな造林を行っており、低コスト造林技術に対する関心が高い。このため、県と公益社団法人埼玉県農林公社が連携しながら低コスト造林技術を高めるための検討会を行っている。</p>					
2 事業主体及び負担区分 (県10/10)								
3 地方財政措置の状況 なし								
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×0.2=1,900千円								
予算額			財 源 内 訳				一般財源	前年との 対比
決定額	1,125						1,125	△2,055
前年額	3,180						3,180	